

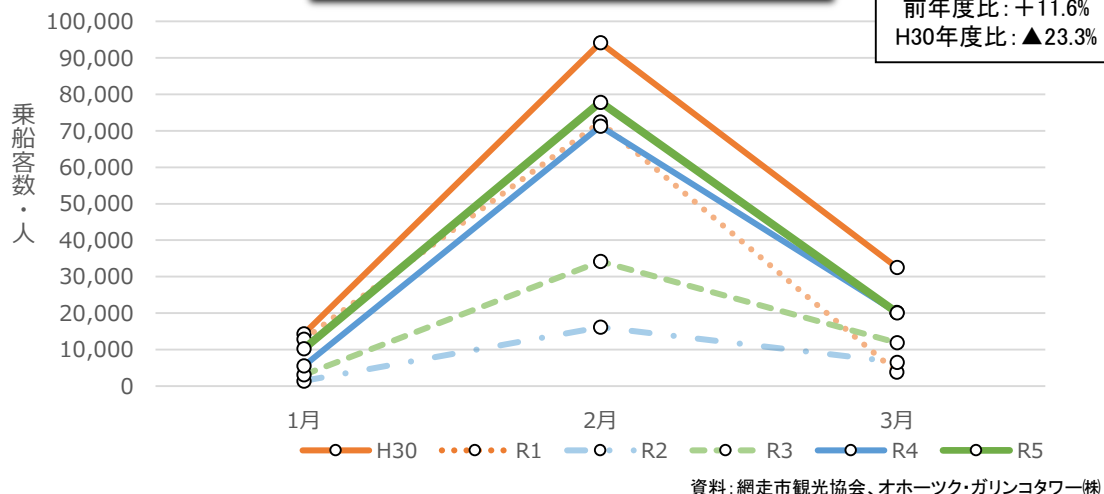
## 【令和6年1月～3月期における流水観光の状況】

- 流水観光船(網走:おーろら号、紋別:ガリンコ号)の乗船客数及び知床宿泊者数は、外国人観光客の増加により、前年を上回るものの、平成30年度と比較すると乗船客数は約7割、知床宿泊者数は約8割となっている。
- オホーツクの玄関口となる女満別空港の利用客数は、前年及び平成30年度を下回っている。
- このように、令和5年度のオホーツク流水観光については、外国人観光客の増加などにより回復傾向にあるものの、コロナ禍前の水準には至っていない。

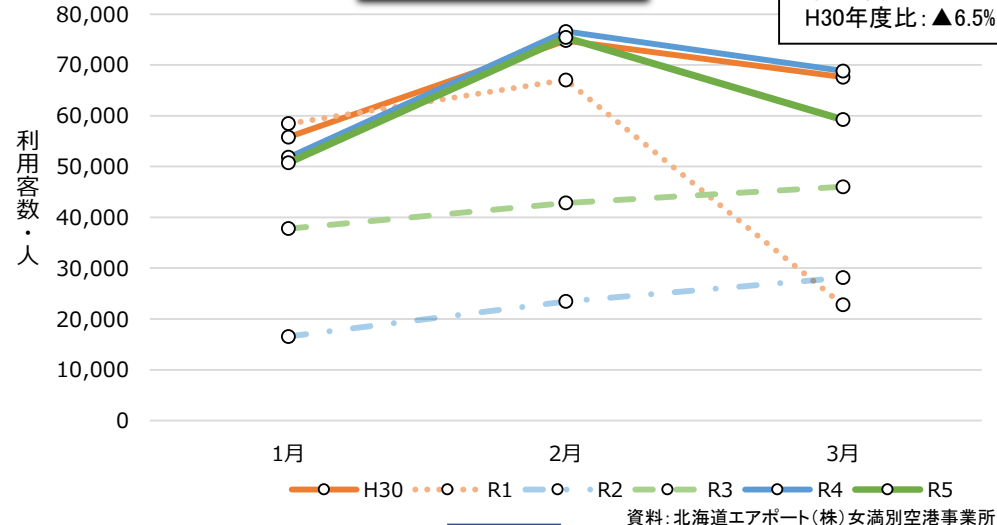
## (企業・関係団体からの生の声)

- コロナの5類移行や円安の影響に加え、今年は流水の当たり年であったことから、前年と比較して国内外問わず観光客が増加した。(知床地区 観光施設)
- 国内客については、当地区を訪れた人によるSNSでの発信効果もあり、若い世代の観光客が増加している。(観光協会)
- 外国人観光客が増加し、乗船者の半数を占めていたと感じる。特に台湾、タイ、シンガポール、インドネシアからの乗船が多かった。(紋別地区 観光施設)

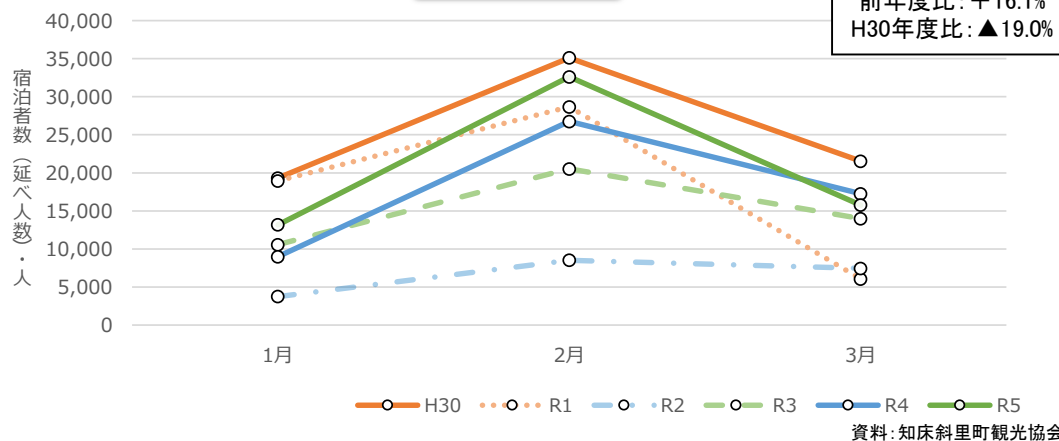
流水観光砕氷船おーろら・ガリンコ号乗船客数の推移



女満別空港利用客数の推移



知床宿泊者数の推移



## 【流水観光の展望】

- 次年度の流水観光については、SNSなどでの情報発信により、若い世代を中心とした国内客の増加が見込まれるほか、外国人観光客も回復してきており、コロナ禍前の水準に近づくことが期待される。

## 【先行き】

- 4月から2年間、「知床国立公園60周年・世界遺産20周年記念事業」として、道内各地で関連イベントの開催が予定され、知床遊覧船については、官民の安全対策が講じられているほか、5月に入ると芝桜(大空町、滝上町)、チューリップ(湧別町)など花観光シーズンが本格化し、多くの観光客が訪れることが期待される。